

木質バイオマスエネルギーから 生まれる産業って？



最上地域は約8割が森林であり、豊富な森林資源のもと、現在、11基の木質チップボイラが稼動し、また古くからストーブが数多く使われるなど、様々なシーンで、チップや薪などの木質バイオマスエネルギーを使っています。

今後、再生可能エネルギーへの関心の高まりから、木質バイオマスエネルギーの需要がさらに増えてくることでしょう。それに伴い、林業・チップ製造・機器製造・販売・メンテナンス業など、様々なビジネスが誕生することが期待されますが、最上地域ではそれらを担うことのできる事業者が多くはありません。

最上地域に合ったビジネスの実現化に向け、お二人の講師に熱く語っていただきます！

1 講演 木質バイオマスエネルギーが 生み出す地域の雇用(仮)

講師 (株)NERC(自然エネルギー研究センター) 大友詔雄氏

2 トークセッション 最上地域が目指す産業化の方向性

大友詔雄氏 × 三浦秀一氏(東北芸術工科大学准教授)

プロフィール おおともりのりお 大友詔雄 工学博士

(株)NERC(北海道札幌市) 代表取締役センター長

- 北海道大学大学院で原子核工学を専攻、日本原子力研究所の原子炉物理研究専門委員を務めたが、原発の安全性に疑問を持ち、自然エネルギーの開発・普及に転進
- NERCを立上げ、センター長として、地域の産業振興に奔走
- その他、総務省「地域資源・事業化支援アドバイザー」にも就任
- 著書:「自然エネルギーが生み出す地域の雇用」、「自然エネルギー利活用で「地域産業・社会の再構築」と目指す(北海道)」など

日時 12月13日(金)

13:30~15:30

場所 新庄市民プラザ小ホール
(新庄市大手町1-60)

主催・
問合せ先



最上地域再生可能エネルギー協議会
(NPO法人バイオマスもがみの会)

TEL:0233-23-1955



最上総合支庁

総務企画部地域振興課

TEL:0233-29-1240

セミナー参加申込書

申込み期限:12月10日(火)

最上総合支庁地域振興課 まで

FAX:0233-23-2615

E-mail:osumik@pref.yamagata.jp

団体・企業名	役職	氏名	電話番号